

活動のお知らせ

特集 Yさんの事例

山間地域にお迎え

青森市荒川寒水沢のYさん

青森市の包括支援センターからデイサービスゆうじょうに電話が来ました。

沖揚平から城ヶ倉に向かって間もなくの地で、デイサービスを利用したいという相談が包括にあったが、同じ青森市とは言え、冬は通行止めになるので困っています。

どうか利用させてもらえないでしょうか。居宅も一緒にご紹介くださいませんか。との内容でした。よく聞くと本人の周辺症状のため妻が夜間も眠れなく、疲れ切っている。週に二回ぐらいでも解放してあげたい。というのです。引き受けてくれるなら、間もなく調査が入るのでその日に自宅で会議をしたい。とも言われました。

すぐさま送迎の体制をとり、居宅を決め、会議に出席しました。妻の疲弊した顔色を見て、さっそく翌日から暫定利用することを



上記は6月20日の報告です。

今回はその続報です。

Yさんは6月1日から週二回の予定で利用開始しました。

青森市包括からいただいた利用者の基本情報によると進行した認知症のレベルはⅢaでした。夜間8回も10回もおしっこに行き、トイレを汚し、紙パンを刻んで投げ捨て、空腹なのか何でも口に入れる。浴槽にも足が運べない。これが何年か続いたという。

6月中は週二回ご利用。失禁は時々、パンツも刻んで口に入れたりしていました。それでも機能訓練には積極的に参加してくれました。そのためか、ふらつきは見られなくなりました。

6月下旬、妻の健康がすぐれず1週間ほどショートステイを利用しました。

帰ってきたらふらつきが戻っていました。

妻はもう自分もたないから、ホームに入りたいと考える様になりました。

そしてホームが決まるまでは、毎日（日曜日除き）利用できないかと相談がありました。

表からの続き

7月11日にケアマネージャーの勧めもあって、今後の対応を考えるために、所長が同行し、あけぼの病院の精神科を受診しました。そこでは状況をつぶさに伝えました。

医師はまず夜の睡眠をしっかりとさせようと、睡眠剤を出しました。これまでは年齢のこともあってか、弱い睡眠導入剤が内科から処方されていましたが、全く効果はありませんでした。精神科医の判断は追加処方では効果を上げようとしたのでしょう。そのうえ黒石病院の脳内科を紹介して検査を行いました。少し出血した後は所見されたが、経過観察でよいとの見解が出されホッとしました。

それからが急展開です。睡眠薬処方されてから夜は眠り、朝は目冷める正常な生活習慣に戻り始め、約二週間たった今日、見違えるような変化が現れました



自宅につくと一人で車のドアを開け、降りて段差を軽く乗り越えて玄関のノブを力いっぱい回して、ドアを開け、ただいまと家に入ります。

夜の徘徊は全くなくなりました。失禁もほとんどなく、紙パンの契りも無くなりました。認知症の周辺症状と思っていた症状は、睡眠不足による意識障害だったのでしょうか。

デイでは新聞を読み、食事は一人で完食し、こぼす事も無くなりました。たまに服に米粒が付くと指でつまんで食べます。しっかり覚醒した彼は、ゲームやカラオケにも参加し毎日がとても楽しそうです。

つい先日の事、車の中で「自分は東英中学校に入った。この辺がそうだ」と言い、少し進んだところで、「ここは牡丹台だ」と言うのです。運転していた私はここまで回復したかと、驚きました。

このような姿を見ても妻は、またかつてのような悪夢が襲ってこないだろうかと不安を隠せないようです。妻の不安が解消されることを願って、語りかけながら支援を続けています。

令和4年7月23日

中山篤英